

各拠点病院が重点的に取り組んでいるがん対策(2025年度)

1. がんの予防

①生活習慣(喫煙) ②生活習慣(飲酒) ③感染症対策(HPV) ④感染症対策(肝炎) ⑤感染症対策(HTLV-1)

・院内でのC型肝炎抗体陽性者のスクリーニング □

□

□

—

2. がん検診

①科学的根拠に基づくがん検診の実施について ②がん検診の精度管理等について ③受診率対策について

・内視鏡検査による胃がん検診数の増加と内視鏡検査結果のWチェックによる精度管理

3. がん医療提供体制

①医療提供全般 ②病理診断 ③がんゲノム医療 ④手術療法 ⑤放射線療法 ⑥薬物療法 ⑦チーム医療の推進 ⑧医療実装

・ロボット支援下手術の対象がん腫の拡大(2024年度 大腸がん、前立腺がん、肝臓がん、膵臓がん 導入)

2025年7月～ 肺がん手術開始 → 9月より開始、婦人科手術準備中 → 7月より開始

・がんゲノム医療連携病院指定に向けて院内体制の整備・強化

がんゲノム医療コーディネーター養成研修受講(2名)

遺伝カウンセリングの体制準備

・病理検査室の適切な人員配置と体制の維持・強化、精度管理(ISO15189)取得

・低栄養患者に対する栄養サポートチームとの連携

・周術期管理(口腔外科・栄養等)の強化

・がん薬物療法体制加算の取得に向けた体制作り

・新機器導入(True Beam)に伴い高精度なIMRT・定位放射線治療件数増数を図る

4. 緩和・支持療法

①緩和ケア ②在宅療法 ③リハビリテーション ④支持療法 ⑤妊孕性温存療法

・妊孕性温存療法の情報提供・連携の強化

連携体制(カルテ内連携シート更新)、周知強化のための院内研修会について検討中

・DXを利用した有害事象(irAE/CRS等)の自己管理に向けた整備

薬剤部と連携し、院内irAE対策委員会にて検討中

・緩和ケア診療の一貫として個別栄養食事管理の実施《栄養科》

・院内職員向け緩和ケア講習会を年1～3回実施(2025年度:「最新のブロック治療」「ACPを根付かせるために」予定)

6/2 中部徳洲会病院 服部医師「がん疼痛治療の最前線 神経ブロックと脊髄鎮痛」開催

7/29 日本地域統合人材育成機構 重田氏「特別でない、チーム医療で行う日常実践～ACPを院内文化にするためには～」開催

・入院時 入院後に毎日の痛みスクリーニング実施と対応

スクリーニングされたデータを元に痛みが強い対象に早期から症状緩和できるように当該部署へ助言を行っている

・オピオイド使用患者の抽出(毎週)と適切な服薬指導の実施

オピオイド使用患者をリスト化し、緩和ケアチーム介入以外の入院患者についても検討し必要時助言をしている

・緩和ケアチームカンファレンスへの参加によるリハビリ-他職種の連携

・がんリハ研修会への参加により、対応できるスタッフ(PT・OT・ST)の充実

5. 個別のがん対策

①希少がん ②難治性がん ③小児がん ④AYA世代のがん ⑤高齢者のがん ⑥離島・へき地

・高齢者総合機能評価に基づくがん医療提供のための院内体制整備(共通ツールによる評価と連携体制の強化)

・高齢者のがん患者に対する積極的な訪問診療や訪問看護等の在宅医療の導入

6. 共生

①相談支援 ②情報提供 ③デジタル化 ④就労支援(医療機関側) ⑤就労支援(職場側) ⑥アピアランスケア
⑦自殺対策 ⑧がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭

- ・ 転院先や在宅医療に対する栄養に関連する情報提供の実施
- ・ 転居などに伴いがん治療が継続できる県外の通院先の案内及び受診調整
- ・ 対面相談、電話相談、オンライン相談など、相談者の希望に合わせた相談対応の継続
- ・ 患者家族へ情報が行き渡り、相談窓口につながるような院内職員への広報と周知によるスムーズな連携の強化
- ・ 新病院移転後の患者サロン、患者会活動の支援による継続開催のための院内外との連携強化

7. 基盤

①研究の推進 ②人材育成の強化 ③がん教育及びがんに関する知識の普及啓発 ④がん登録の利活用の推進
⑤患者・市民参画の推進

- ・ 院内外の患者や地域の相談に対応出来るがん専門相談員の育成
- ・ がんフォーラム（①市民対象：がん医療に関すること、②企業・事業所対象：就労・両立支援）の継続開催
 - ① がん市民フォーラム：11/8（土）
 - ② がんと就労・両立支援フォーラム：2026.2/12（木）開催調整中
 - ③ 検査技師対象研修会「病理検査におけるISO15189取得の意義（仮）」：2026.2/14(土) 予定